

令和5年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	81	学校名	県立浜名高等学校	校長名	山崎 仁資
------	----	-----	----------	-----	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	生徒の主体的な学習態度の育成による学力の向上	・授業は分かりやすく、教え方に工夫があると答える生徒85%以上。	答えた 生徒 84.7%	A	多くの教員が授業の振り返りにつとめ、自身の授業改善のために研鑽を積んでいた。 分かりやすいだけでなく、生徒が主体的に学ぶ授業を実践することが課題である。
		・1・2年生の授業において一人一台端末の活用に取り組んでいる教員100%。	取り組んでいる 教員 74.6%	C	I C Tを利用したT Tの研究授業を試みた教員がいた。職員研修会やチーム研修を通して実践例を提示し、啓発を図ったが目標達成に至らなかった。 全職員が取り組める実践例を紹介するなど改善の余地がある。
		・到達度テストにおける各教科の正解率65%以上。	1年生 国 語 60.9% 数 学 64.3% 英 語 72.4% 2年生 国 語 57.6% 数 学 41.7% 英 語 54.9%	B	3教科正解率は1年生 65.8%、2年生 51.4%であった。 苦手分野の課題配信をしているが、今後は事前課題も取り入れ、主体的に学習できる体系的な指導方法の構築が課題である。
		・大学入学共通テストの各教科平均得点率50%以上。	自己採点 国 語 54.1% 数 学 48.8% 英 語 54.1% 地・公 53.6% 理 科 52.7%	A	共通テスト模試、冬季勉強会、直前実戦演習等を計画的に実施し、概ね目標を達成できた。 次年度は新課程対応等、教員への周知とともに生徒への指導も徹底していく必要がある。
	生徒の主体的な進路決定意識の育成による進路実現	・自らの目標に向けて、努力と挑戦を継続していると答える生徒85%以上。	答えた 生徒 86.3%	A	多くの生徒が個々の目標達成のため積極的に努力した。昨年数値（79.3%）を上回り、目標を達成した。
		・第3学年6月までに「未来創造企画書」が完成している生徒100%。	完成した 生徒 95.2%	A	2年12月、3月、3年6月と段階を踏むことで、効果的な面談等を実施し、進路決定意識の育成に貢献した。9月までには97.5%の生徒が完成させた。
		・進路に関する情報提供・指導助言は適切であると答える生徒80%以上、保護者70%以上。	答えた 生徒 86.3% 保護者 74.2%	A	外部講師等を招聘した各学年、複数回の進路講演会をとおして最新情報を提供した。SNS校内サイトを利用して、研修会や体験学習等の情報を発信した。

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
イ	新学習指導要領や大学入試改革に即応した指導法の改善と進学指導体制の確立	・検討会議や研修会等を通じ、自身の授業改善や進路指導充実が図られたと答える教員 90%以上。	答えた 教員 88.6%	A	学校と教職員個人の両方の課題に応えるよう工夫した研修会を開催し、目標をほぼ達成することができた。今後は学校の課題を個人の課題と関連つける工夫が必要である。
		・特進クラスにおける新たな指導体制の1学期中の構築。	特進推進委員会を4回実施し、新たな指導体制を検討した。	B	課題を分析し、令和6年入学生特進クラスの「求める生徒像」やクラス編成方針等を職員会議で決定した。課外授業の実施方法等が今後の課題である。
ウ	質の高い教育活動の展開による生徒の文化に親しむ豊かな心の育成	・学校行事、生徒会・委員会活動及び部活動等に主体的に取り組んでいると答える生徒・保護者 90%以上。	答えた 生徒 90.1% 保護者 85.9%	A	浜名祭等で準備を担当した生徒会役員の活躍もあり、様々な活動で、生徒が主体的に取り組む姿勢が見られた。今後も主体的に取り組める環境を整え、質の高い教育活動を推進したい。
		・1か月に1冊以上本を読む生徒の割合70%以上。	読む生徒 53.5%	C	半数以上の生徒が月に1冊以上の本を読むことができた。活字離れが進む中でも文化に親しむ豊かな心の育成のため、個々にあった選書ができるよう工夫をする必要がある。
		・学校図書館の1人当たりの年間貸出冊数4.0以上。	貸出冊数 3436冊 3.2冊/人 令和4年度実績 貸出冊数 3423冊 3.1冊/人	C	図書館通信や読書感想文集発行を通して、図書貸出しの推進を図った。図書室空調の修理が遅れ、図書館での生徒利用数が減少した。1月修理以降の改善に期待したい。
		・全国・東海大会出場6部活動以上。	12部活動	A	史学部の全国大会最優秀賞を筆頭に、運動部、文化部それぞれの部活動の活躍が結果に結び付き、成果をあげた。
		・校外を対象に活動・発表の場を設けている部活動100%。	設けた 部活動 100%	A	全ての運動部が大会に参加し、全ての文化部が浜名祭一般公開を通して発表の場を設けた。文化部半数以上はコンクール、発表会等にも参加した。多くの部活動が学校HPで活動状況を発信し、HP更新数に貢献した。

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
エ	社会情勢に適合した生徒指導と安全・安心な教育環境整備を通じた生徒の自己肯定感、自律心及び社会性の育成	・挨拶を心掛けたり、身だしなみに心を配ったりするなど社会のマナーを意識して学校生活を送っていると答える生徒及び保護者 95%以上。	答えた 生徒 97.2% 保護者 94.1%	A	挨拶、身だしなみなどの社会マナーを意識して学校生活を行っている生徒が多く、他者からも認められた。また、県高P連等から善行賞として3件5人が表彰を受けた。 今後も当事者意識を持ち、マナーやモラルの意識の向上をさせていきたい。
		・受診が必要な生徒の治療率 85%以上。	治療率 52.4%	B	心電図の要精密検査対象者の受診率が 94%であった。受診する科によって治療率に大きな差がみられ、特に耳鼻科は市販薬等で対応している生徒が多く、受診に繋がらなかった。視力も受診率は約 20%と低かった。更に分析をし、指導方法の改善を図りたい。 学校保健委員会では生徒発表の場を設定し、生徒の社会性育成を図った。
		・校内に自分の悩みや不安を話す人や機会・場所があると答える生徒 80%以上。	答えた 生徒 84.9%	A	生徒は保健室で自身の悩みを吐露することが多いため、養護教諭が傾聴に当たり、そこから教育相談担当が必要に応じてスクールカウンセリングに繋げることができた。 次年度も、連携した対応を継続したい。
		・学校内外の整備・美化は行き届いていると答える生徒・保護者 85%以上。	答えた 生徒 77.4% 保護者 84.8%	B	トイレ、流し場の清掃は保健委員が定期的に点検し美化に努めた。廊下、階段等の綿ほこりは取り切ることができなかった。 次年度は新たに美化委員会を設置し、学校全体の美化に努める。
		・地震や暴風警報発令時等の登校基準や行動を把握していると答える生徒・保護者 80%以上。	答えた 生徒 68.5% 保護者 78.0%	B	天候不良時の登校基準や行動等を、絆ネットを利用して周知した。防災訓練では生徒が自分事として考えられるよう、グループワークを盛り込んだ内容で実施した。 生徒の防災意識向上に向けて、更なる工夫をしていきたい。

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
オ	広報の充実及び地域等での取り組みを通じた教育活動の周知	・「学校案内」「学校紹介動画」の刷新。	学校案内は頁数を増やして定時制と一元化した。写真配置を工夫し、拡充した。紹介動画は生徒が主体となって紹介する形態で制作している。	B	学校案内、学校紹介動画は中学校訪問・中学生1日体験入学・浜松地区公立高校合同フェア・公開授業等において活用した。効果的な広報に貢献した。また、本校広報活動は適切であると回答した保護者は89.7%であった。
		・ホームページの毎日更新。	更新数 364件 1.0件/日	A	情報・広報課員を中心として組織的に学校行事や生徒発表、集会等のページを更新した。部活動では野球部、吹奏楽部、剣道部の更新数が多かった。教育活動の周知が図られた。 校則見直しの記事には保護者から学校の取組が分かったという反応があった。
		・一日体験入学等で浜名高校のことが分かったと答える来校者95%以上。	一日体験入学 答えた 来校者 98.8% 公開授業 答えた 来校者 96.5%	A	体験活動や公開授業に参加した保護者、中学生に対し、本校の教育活動や日頃の生徒の様子を伝えることができ、理解を得ることができた。
		・校外を対象に活動・発表の場を設けている部活動100%。(再掲)	設けた 部活動 100%	A	全ての運動部が大会に参加し、全ての文化部が浜名祭一般公開を通して発表の場を設けた。文化部半数以上はコンクール、発表会等にも参加した。多くの部活動が学校HPで活動状況を発信し、HP更新数に貢献した。
カ	教職員の組織力向上と教育活動の合理化・効率化による活力ある運営体制の確立	・各分掌（事務部含む）及び各学年による業務改善・縮減1件以上。	9分掌中6分掌が1件以上。 3学年中全学年が1件以上。	B	課長、主任等が意識して業務改善・縮減に取り組んだ。業務一覧と業務解説書を利用し、業務の見える化に取り組む分掌があった。 課員等も含めて意識改革を進める工夫を加えることで更に推進することが課題である。
		・学校経営予算の授業・各教科への配分35%以上。	授業・各教科への配分 36.5%	A	電気料金、物価が高騰する中で、節約やメリハリのある予算の配分に努めた。年間を通して目標を達成できる見込みである。来年度も引き続き予算が厳しい状況が見込まれることから、常に効率化を意識した予算執行が求められる。